様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１１５０１
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｈ０３５９９

研究課題名（和文）ゾミア2.0 ：「東南アジア」と「南アジア」の境域における開発・民族・宗教

研究課題名（英文）Between Southeast Asia and SouthAsia: Development, Ethnicity, and Religion

研究代表者
今村　真央（Imamura, Masao）

山形大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：６０７４８１３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　33,600,000円

研究成果の概要（和文）：（１）東南アジア通史のプロジェクトから東南アジアと南アジアの歴史的連続性を改めて確認できた。サンスクリット・コスモポリス等、言語を軸とする「コスモポリス」という概念が有効である。（２）ミャンマーとインド・バングラデシュの関係を巡り、とくに英領インド期の人口動態とミャンマー独立後の階層的民族秩序形成についてさらなる研究が必要である。（３）南アジア（特にインド）と東南アジアでは少数民族の文字観が大きく異なる。前者では文字表記が重視され、少数民族が文字の独自性を主張する。一方、後者ではキリスト教宣教の影響もあり、ローマ字表記が積極的に受容されており、国外（西洋）との連携を強調するという傾向が強い。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2021年の2月から半年ほどはミャンマーが連日ニュースで取り上げられ、本プロジェクトのメンバーもオンラインでの公開講座などで講演することがたびたびあった。報道関係者もミャンマーを訪れることができなかったため、ミャンマー研究者の貢献が普段以上に求められた。こういった状況への対応は、当然のことながら当初の研究予定には含まれていなかったが、柔軟かつ迅速に対応することで、地域研究者として社会還元を実現できた。起こったばかりの事件を長い歴史的文脈に位置付けることで、研究者の再読にも値するような分析になることを心がけた。一般市民の反応から学ぶことも多く、学術研究者にとって貴重な学びの機会となった。

研究成果の概要（英文）：(1)Our study of/with Anthony Reid's long history of Southeast Asia has confirmed that we will benefit from the idea of "cosmopolis" to understand the influences of South Asia (and other places) in the region. (2) The ethnic and demographic dynamics for the in-between areas of Myanmar and South Aisa deserve much more consorted academic inquiry. While fieldwork remains restrained, we can still study better the population flows during the colonial and era and the formations of the ethnic hierarchy during the post-colonial era. (3) Ethnic minorities show marked differences between Southeast Asia and South Asia when it comes to their attitudes towards script. While many of those in Southeast Asia have adopted Roman scripts and emphasize the connection with the West, those in South Asia claim and take pride in the originality of their script. This is an uncharted area of inquiry, which should be explored in the future.

研究分野：人文地理

キーワード：ゾミア　境界　南アジア　東南アジア　ミャンマー　地域研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本科研費事業は 2018 年に始動した。実際のところ、構想時期（つまり申請書が書かれたの）は前年の 2017 年であり、2024 年の今日からすでに 7 年前のことである。構想の背景には、2017 年の夏にミャンマー西部で起こった、ロヒンギャにたいする虐殺・ジェノサイドがあった。ミャンマー・バングラデシュ国境地帯で起こったこの事件は衝撃的だったが、ロヒンギャを専門とする研究者がいないということもまた驚きであった。ミャンマー・バングラデシュ国境地域というのは、東南アジアと南アジアの境界でもあり、地域研究の知的枠組みから抜け落ちてしまっていた。本プロジェクトは、既存の地域研究の枠組みに依存してはいけないという認識のもとに結成された。この地域の山地帯を指す「ゾミア」という概念が、既存の空間概念の相対化においてとりわけ有効であると判断し、この概念のさらなる展開を試みた。

２．研究の目的

本研究プロジェクトの目的は、「東南アジア」と「南アジア」という枠組みを相対化し、この二つの境界地域を対象化することであった。これは、地域研究という知的体系制度に対する挑戦であり、また「辺境」の山岳地で何が起こっているかを明らかにするという点で状況に対する応答でもあった。つまり、研究の核心は、ロヒンギャのような集団がなぜ学術的研究および制作的調査の対象になってこなかったのかという問いであり、そしてもう一つはこのような少数派集団に実際に何が起こっているかという現状解明の作業であった。

３．研究の方法

コロナ禍とミャンマーのクーデターに見舞われ、研究方法も含め本プロジェクトは二転三転した。当初、具体的な方法として我々が重視したのは、チームによる現地調査であった。専門分野の異なる複数の研究者が海外に赴き、共同でフィールド調査を試みるというのは、日本の地域研究の良き伝統である。本プロジェクトは、バングラデシュ、インド、ミャンマーの研究者がお互いのフィールドを訪れ合うという予定であった。とくに、ミャンマー渡航未経験のインド・バングラデシュの研究者が多いことから、ミャンマーでの共同フィールド調査を、2020 年度に本格的に実施するという計画を立てた。

しかし、2019 年末に始まった新型コロナウイル氏感染症の世界的流行によって、2020 年 4 月以降は海外渡航が全面的に不可能となった。海外渡航のみならず国内での対面研究会も開催できなくなり、プロジェクト全体が頓挫する。結局、2020 年度と 2021 年度はコロナ禍が原因で、海外での現地調査は不可能のまま終わった。

さらに、2021 年に 2 月にはミャンマーで軍事クーデターが突然起こる。このクーデター後にミャンマーは国全体が内戦状態に陥り、コロナ禍終了後も、現地調査が実質止まっている。本プロジェクトの大半はミャンマー研究者であり、クーデター危機への対応に追われた。

2020 年以降は、このような異常な事件が重なり、本プロジェクトは想定外の状況に振り回された。最終的に、代表は共同現地調査は断念し、計画変更を概ね個々の判断に委ねることにした。編著や特集号という形での研究成果発表を無理に追及しないという判断を下した。チーム全体での研究の比較や統合よりも、個々の生産性を優先したということになる。

そのような混乱の最中でも、３つの「方法」を柔軟に用いることができた。

（１）通史の研究と翻訳。コロナ禍を機会と捉え、翻訳出版を推し進めた結果、東南アジア史の大家アンソニー・リードによる『世界史のなかの東南アジア』（全 712 頁）を 2021 年 12 月に出版できた。翻訳を進めるにあたり、非常に多くの研究者から協力を得ることができた。また、リード本人を招聘し、大規模な国際シンポジウムを開催できたことも大きな成果である。（研究の内容については、次の「研究成果」欄で述べる。）さらに、翻訳プロジェクトを通して「研究の翻訳」および「翻訳の研究」という新たな視点に着目し、2021 年の 12 月に「東南アジア（研究）における翻訳の問題」という公開シンポジウムを開催した。

（２）状況の解説。2021 年の 2 月から半年ほどはミャンマーが連日ニュースで取り上げられ、本プロジェクトのメンバーもオンラインでの公開講座などで講演することがたびたびあった。出版した論考では最新の事件を長い歴史的文脈に位置付けた。報道関係

者もミャンマーを訪れることができなかったため、ミャンマー研究者の貢献が普段以上に求められた。こういった状況への対応は、当然のことながら当初の研究予定には含まれていなかったが、柔軟かつ迅速に対応することで、地域研究者として社会還元を実現できた。また、日本の一般市民に向けての発表機会から学ぶことも多く、学術研究者にとって大きな学びの機会となった。社会貢献の効果を知る上で有効な「方法」であったといえるだろう。
（３）少数民族の言語制度設計。オンラインで海外渡航を断念することになったものの、オンラインでの連絡は概ね可能であった。研究者本人が現地を訪れないと進められない類の調査が多かったため大幅な計画変更を余儀なくされたが、オンラインでも可能なデータ収集や研究会は積極的に進めた。本プロジェクトには、複数の優れた言語学者が加わっていたことから、少数民族言語に関する共同研究を進めることができた。2022 年度は国内でのパネル発表、2023 年には国際ワークショップ、海外でのパネル発表に結実した。

４．研究成果

　コロナ禍とクーデターにより共同現地調査を断念したため、成果は当初より分散している。ここでは、上欄の「方法」とその成果活動に沿って、得られた成果の内容を簡潔に提示する。

（１）まず、東南アジア通史のプロジェクトから改めて確認できたことは、東南アジアと南アジアの歴史的連続性である。東南アジアの言語と遺伝子プールの大半は東アジアに由来するが、宗教と文字文化に関しては（ベトナムを除き）南アジア（と中東）に起源を持つものが圧倒的に多い。この連続性に注目した 20 世紀の歴史家は、東南アジアでの「インド的王国」の普及という歴史観を提唱したが、リードはこのパラダイムから国家形成という要素を除き、「サンスクリット化」という概念を提唱したである。日本では、シェルドン・ポロックが示した「サンスクリット・コスモポリス」論の導入が遅れたため、多くの研究者が『世界史のなかの東南アジア』を通してこの概念に初めて触れたことだろう。日本語でも「パーリ・コスモポリス」という新たなモデルが提唱された。議論はさらに盛り上がっていくことだろう。

（２）ミャンマーの現在的状況、とくにロヒンギャ迫害と軍事クーデターについて複数のメンバーが論考を発表した。そこに共通するのは、突発的と思える事件の背後にも必ず長い歴史的な経緯があるという視点である。ミャンマーとインド・バングラデシュのあいだの人口動態を巡っては、とくに英領インド期の人口移動とミャンマー独立後の階層的民族秩序形成についてさらなる研究が必要だ。民族紛争が終わらないミャンマーから、クーデター以降に民族の境界を超える連帯が生まれつつあると報告されているが、同時にロヒンギャへの迫害が根深いことも明らかである。この少数民族をめぐる状況については、ミャンマーおよびバングラデシュでさらに本格的な現地調査が必須であるが、フィールドワークに適した環境が整わないため、今後研究方法でのさらなる創意工夫が求められる。さらに、人道支援と人権侵害という二つの新たなテーマにおいて多角的な学術研究の貢献が必要であることも発見であった。

（３）本研究は、ジェームズ・スコットの『ゾミア　脱国家の世界史』に啓発され、東南アジアと南アジアの境界地域に暮らす少数民族に光を当てる試みであった。『ゾミア』は、山地の少数民族を「国家から逃れる人々」として鮮明に描いたが、その時代設定は主に前近代であったため、本プロジェクトは 20 世紀後半以降の変容を解明することを目指した。そこで我々は少数民族が自らつくる制度に注目した。国家を持たざる少数民族は、無秩序な世界を生きたいわけではない。では、どのような制度を集団として作り、維持・改善しているのか。我々は言語表現、とくに文字表記に注目し、正書法に焦点を絞った。この比較研究は国際的にも珍しく、海外の研究者からも注目された。その結果、南アジア（特にインド）と東南アジアの差異を発見できた。前者では文字表記が重視され、少数民族が文字の独自性を主張する傾向が強い。一方、後者ではキリスト教宣教の影響もあり、ローマ字表記が積極的に受容されており、国外（西洋）との連携を強調するという傾向が強い。二つの地域ではっきりと違いが現れる結果となった。南アジアでは少数民族も文字の使用を強調する。これは先行研究からは得られない、本プロジェクトのオリジナルな発見であっただろう。今後さらに発展させていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計31件（うち査読付論文　15件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 Otsuka, Kosei	４．巻 3
２．論文標題 Directional Prefixes in Tiddim Chin	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan languages	６．最初と最後の頁 197-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Keita Kurabe	４．巻 1
２．論文標題 Oronyms in northern Burma: Asymmetry between highland and lowland place names. Studies in Geolinguistics.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Studies in Geolinguistics	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 木村真希子	４．巻 53
２．論文標題 インド・アッサム州における人の移動と人権保障 全国市民登録簿(NRC)更新問題を中心に	５．発行年 2022年
３．雑誌名 平和研究	６．最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Lyla Mehta, Shilpi Srivastava, Synne Movik, Hans Nicolai Adam, Rohan D’Souza, et al	４．巻 49
２．論文標題 Transformation as praxis: responding to climate change uncertainties in marginal environments in South Asia	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Environmental Sustainability	６．最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.cosust.2021.04.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 木村真希子	4．巻 106
2．論文標題 インド・アッサム州における市民権問題	5．発行年 2022年
3．雑誌名 立教法学	6．最初と最後の頁 59-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今村真央	4．巻 948
2．論文標題 辺境からみるミャンマー政変 ： 内戦史のなかのクーデター	5．発行年 2021年
3．雑誌名 世界	6．最初と最後の頁 230-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Masao IMAMURA	4．巻 80
2．論文標題 "The Hidden History of Burma: Race, Capitalism, and the Crisis of Democracy in the 21st Century. By Thant Myint-U."	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The Journal of Asian Studies	6．最初と最後の頁 528 - 531
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0021911821000504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今村真央	4．巻 48
2．論文標題 『宗教と近代』と東南アジア研究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東南アジア―歴史と文化	6．最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 D'SOUZA, Rohan	4．巻 26
2．論文標題 Event, Process and Pulse: Resituating Floods in Environmental Histories of South Asia	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Environment and History	6．最初と最後の頁 31-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3197/096734019X15755402985541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 D'SOUZA, Rohan	4．巻 101
2．論文標題 Scarcity, Environmentalism and the Politics of Pre-Emption: reconsidering the environmental histories of South Asia in the epoch of the Anthropocene	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Geoforum	6．最初と最後の頁 242-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.geoforum.2018.09.033	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 D'SOUZA, Rohan	4．巻 4-2
2．論文標題 Should Clean Energy be Politics as Usual? Reflections on India’s Energy Transition Quest	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Georgetown Journal of Asian Affairs	6．最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 KURABE, Keita	4．巻 1
2．論文標題 Animal nomenclature in Jinghpaw	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Topics in Middle Mekong Linguistics	6．最初と最後の頁 75-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 KURABE, Keita	4．巻 38
2．論文標題 Where have all the adjectives gone? The case of Jinghpaw.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Kyoto University Linguistic Research	6．最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田峰夫	4．巻 1
2．論文標題 ロヒンギャ問題とアラカン・ロヒンギャ救世軍（ARSA）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ロヒンギャ問題とは何か――難民になれない難民	6．最初と最後の頁 37-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田幸一	4．巻 1
2．論文標題 共同体の多様性と開発	5．発行年 2019年
3．雑誌名 開発経済学：アジアの農村から	6．最初と最後の頁 120-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田幸一	4．巻 1
2．論文標題 グラミン銀行	5．発行年 2019年
3．雑誌名 開発経済学：アジアの農村から	6．最初と最後の頁 200-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池田一人	4．巻 1
2．論文標題 泰緬鉄道建設をめぐる戦争記憶の比較史―日本人将兵、イギリス人捕虜、ビルマ人労務者―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育―日本史と世界史のあいだで―	6．最初と最後の頁 152-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小島敬裕	4．巻 1
2．論文標題 ミャンマーにおける戦争と中国国境周辺地域の変容―少数民族タアーン（パラウン）の生存の技法	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略―避難民・女性・少数民族・投降者からの視点	6．最初と最後の頁 223-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今村真央	4．巻 48
2．論文標題 『宗教と近代』と東南アジア研究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東南アジア　歴史と文化	6．最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大塚行誠	4．巻 45
2．論文標題 ラルテー語における動詞語幹の交替	5．発行年 2019年
3．雑誌名 言語文化研究	6．最初と最後の頁 161-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akihiko Ohno, Koichi Fujita and Kamal Vatta	4．巻 20
2．論文標題 Structural transformation of an Agrarian Society: Case Studies from Punjab, India	5．発行年 2019年
3．雑誌名 INDAS Working paper	6．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Koichi Fujita, Yogesh Shinde and Ramkumar Bendapudi	4．巻 22
2．論文標題 Land, labor, and Agricultural Innovations in a semi-arid Region of Maharashtra, India: The Case of Bhojdari Village	5．発行年 2019年
3．雑誌名 INDAS Working paper	6．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 倉部慶太	4．巻 37
2．論文標題 ミャンマーの「姥捨山」：ジンポー語による民話テキスト	5．発行年 2018年
3．雑誌名 京都大学言語学研究	6．最初と最後の頁 61-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/240979	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 倉部慶太	4．巻 10
2．論文標題 ジンポー語民話資料「嘘つきのナンビャ」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 言語記述論集	6．最初と最後の頁 69-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 倉部慶太	4．巻 20
2．論文標題 ミャンマー北部で失われつつある口承文芸をあつめる	5．発行年 2018年
3．雑誌名 FIELD PLUS	6．最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/92723	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Keita KURABE	4．巻 1
2．論文標題 The small closed adjective class in Jinghpaw	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics	6．最初と最後の頁 409-419
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長田紀之	4．巻 258
2．論文標題 近代ミャンマー（ビルマ）の都市	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歴史と地理―世界史の研究	6．最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長田紀之	4．巻 5
2．論文標題 近代植民地都市について―東南アジア研究の立場から―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 都市史研究	6．最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長田紀之	4．巻 47
2．論文標題 日本の東南アジア史研究（2006-17）―重層する地域、近代性批判、歴史語り―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東南アジア―歴史と文化―	6．最初と最後の頁 50-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長田紀之	4．巻 2018
2．論文標題 2017年のミャンマー：過去最大の難民危機	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アジア動向年報	6．最初と最後の頁 433-456
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/asiadoukou.2018.0_433	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 木村真希子	4．巻 2023
2．論文標題 シャレングラは日本兵と結婚したのか？ ――インパール作戦をめぐる語りと記憶	5．発行年 2023年
3．雑誌名 PRIME Occasional Papers	6．最初と最後の頁 22-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計54件（うち招待講演　7件／うち国際学会　25件）

1．発表者名 Kellen Parker van Dam, Keita Kurabe
2．発表標題 A comparative account of the Jinghpaw lexicon in China, Myanmar and India: Evidence of the limited effects of language contact.
3．学会等名 Sixth Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China（国際学会）
4．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Keita Kurabe
２．発表標題 Lexical borrowability in Jinghpaw
３．学会等名 Sixth Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 「借用語受容における言語的要因と社会的要因：ビルマ語群北部下位語群の語彙借用」
３．学会等名 日本言語学会第162回大会
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 池田一人
２．発表標題 国軍クーデターとミャンマー社会の現在―何が起こっているのか
３．学会等名 朝日カルチャーセンター中之島（招待講演）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Otsuka, Kosei
２．発表標題 Lexical borrowing in Asho Chin
３．学会等名 2nd Workshop on Linguistic and Cultural Diversity in the Northeast India - Myanmar - Southwest China region（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 池田一人
２．発表標題 ミャンマー現代史におけるクーデター―民主化問題と民族問題の現在
３．学会等名 朝日カルチャーセンター中之島（招待講演）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 池田一人
２．発表標題 ミャンマーの「民族」を歴史の中で考える―ロヒンギャ、カレン、ビルマ―
３．学会等名 慶応義塾大学言語文化研究所公開講座（招待講演）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 池田一人
２．発表標題 1950-60年代ミャンマーの「ロヒンギャ」に関する予備的考察：ウー・ヌ政権期のイスラームをめぐるコネクティビティの形成、その解体について
３．学会等名 イスラーム信頼学ワークショップ
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 D’Souza, Rohan
２．発表標題 Hello Anthropocene ! Goodbye Environmental History?
３．学会等名 Pluralizing the Anthropocene: Re-envisioning the future of the Planet in the 21st Century（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 D’Souza, Rohan
２．発表標題 Anthropocene Rain and Soaked Concrete: Can Policy-Making Rescue the “Flooded Asian City
３．学会等名 49th Annual Conference on South Asia（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 D’Souza, Rohan
２．発表標題 Perennial versus Inundation Colonial Engineering and the Crisis of River Control in South Asia
３．学会等名 Perceptions of Environment: Climate Change and Rivers in India: Oslo Metropolitan South Asia Lecture Series, Oslo Metropolitan University, Oslo (Norway).（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 D’Souza, Rohan and Lyla Mehta
２．発表標題 Rain and Concrete: Can we change the “Flooding Cities” narrative in Anthropocene South Asia
３．学会等名 ISAS-UOS CONFERENCE（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 木村真希子
２．発表標題 2021年アッサム州議会選挙： ヒンドゥットヴァの勝利か、ヒンドゥットヴァの変質か？
３．学会等名 2021年度州政治科研研究会
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 木村真希子
２．発表標題 ボドランド運動のもたらしたもの
３．学会等名 RINDAS総括シンポジウム
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Kimura, Makiko
２．発表標題 Hindutva Consolidation or Conversion?
３．学会等名 13th INDAS South Asia I nternational Conference: Populism, Diversity, and Enemies of the People: Politics and Society in South Asia in the Twenty First Century（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 今村真央
２．発表標題 ミャンマー：軍政と民族問題
３．学会等名 知る・繋がる～ミャンマー連続講座（招待講演）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 IMAMURA, Masao
２．発表標題 Centrality of Christian Conversion to Kachin Nation Making
３．学会等名 European Association for Southeast Asian Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 KIMURA, Makiko
２．発表標題 Who are the Citizens in Assam? --NRC Update in Assam, India--
３．学会等名 11th session of the International Convention of Asia Scholars（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村真希子
２．発表標題 インド北東部におけるインパール作戦をめぐる記憶――戦争とジェンダー、エージェンシー
３．学会等名 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター会議
４．発表年 2019年

１．発表者名 小島敬裕
２．発表標題 北東インドにおけるシンポー族とタイ系民族の仏教実践
３．学会等名 2019年度アジア・アフリカ言語文化研究所言語研修（ジンポー語）文化講演
４．発表年 2019年

１．発表者名 池田一人
２．発表標題 ロヒンギャ問題がビルマの歴史研究に問いかけるもの―ビルマ史、ラカイン史、イスラーム―
３．学会等名 アジア太平洋研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 IKEDA, Kazuto.
２．発表標題 Rohingya and Rakhine in Myanmar: A Case of History Education and Naiton in Southeast Asian Studies.
３．学会等名 国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」最終国際シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 OTSUKA, Kosei.
２．発表標題 The Influence of Burmese on Asho Chin Grammar.
３．学会等名 Workshop on linguistic and cultural diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region.（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 KURABE, Keita
２．発表標題 Kachin Orature Project: Documentation, maintenance, and revitalization of the oral heritage in northern Myanmar.
３．学会等名 The International Year of Indigenous Languages 2019: Perspectives Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 KURABE, Keita
２．発表標題 Zaiwa in Kachin contact linguistics.
３．学会等名 Workshop on linguistic and cultural diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 D'SOUZA, Rohan
２．発表標題 The Great Hydraulic Transition: Colonial engineering and the mak ing of modern rivers in South Asia
３．学会等名 3rd World Congress of Environmental History,（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Masao IMAMURA
２．発表標題 Buddhist Kachin (Jinghpaw) of India: What is the Significance of the Exception?
３．学会等名 Association of Asian Studies Annual Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Masao IMAMURA
２．発表標題 Traveling of `Frontier`: Translation of a Concept-Metaphor
３．学会等名 A Space for Translation（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Masao IMAMURA
２．発表標題 Zomias Dry and Wet: Stateless Spaces in Mainland and Maritime Southeast Asia
３．学会等名 東南アジア学会第100回研究大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Masao IMAMURA
２．発表標題 Does Queer Theory Travel? The Case of Japan
３．学会等名 LGBT Politics in Southeast Asia and Japan（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 今村真央
２．発表標題 領土形成、フロンティア、世界史：国境研究の歴史学的展開に向けて
３．学会等名 ボーダースタディーズ研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 池田　一人
２．発表標題 ロヒンギャ問題の現状についての報告
３．学会等名 国際情勢研究所・東南アジア研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kosei OTSUKA
２．発表標題 The structure of verb complexes in Asho Chin.
３．学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Jeremy PERKINS, Juli_n VILLEGAS, Seunghun J. LEE, Kosei OTSUKA
２．発表標題 Using psychoacoustic roughness to measure creakiness in Burmese.
３．学会等名 The 5th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kosei OTSUKA, Keita KURABE
２．発表標題 The cis- and translocative prefixes in Tiddim Chin and Jinghpaw.
３．学会等名 International Workshop Directional Prefix in Tibeto-Burman Languages（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 TAKADA,Mineo
２．発表標題 A small episode on the cow trade between Myanmar and Thailand
３．学会等名 New stage of South Asian agriculture and rural economies（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高田峰夫
２．発表標題 自称と他称の間："Rohingya"と"Bangalee"をめぐって
３．学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区特別例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高田峰夫
２．発表標題 原忠彦先生の研究を最初のバングラデシュ調査から考える
３．学会等名 シンポジウム：50年後に振り替えるベンガルの農村社会
４．発表年 2018年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語における語頭鼻音の成節性
３．学会等名 日本言語学会 日本言語学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 木村真希子
２．発表標題 インド北東部におけるムスリムの排斥
３．学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区特別例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小島敬裕
２．発表標題 ミャンマー最北端における宗教実践の動態
３．学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区特別例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語における閉じたクラスとしての形容詞
３．学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keita KURABE
２．発表標題 Reported speech in Jinghpaw
３．学会等名 SCOPIC - TUFS 2019 Workshop（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 危機文化アーカイブPARADISECとミャンマーにおける言語ドキュメンテーション
３．学会等名 情報資源利用研究センター(IRC)ワークショップ
４．発表年 2019年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語の名詞修飾表現
３．学会等名 Prosody & Grammar Festa 3
４．発表年 2019年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語の動詞連続:複文との対照
３．学会等名 フィールド言語学ワークショップ
４．発表年 2019年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語における動詞連続構文の制約
３．学会等名 日本言語学会第157回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語における名詞化と名詞修飾節
３．学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keita KURABE
２．発表標題 Reported speech and thought in Jinghpaw
３．学会等名 SCOPIC Canberra Workshop 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 なぜ「これやあれや」と言わないか:日本語とジンポー語の並列表現
３．学会等名 外国語と日本語との対照言語学的研究第26回研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keita KURABE
２．発表標題 The small closed adjective class in Jinghpaw
３．学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 ジンポー語における語頭鼻音の成節性
３．学会等名 日本言語学会第156回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 東・東南アジアにおける日月食表現のタイポロジー
３．学会等名 AA研フォーラム
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keita KURABE
２．発表標題 A reevaluation of the discourse basis of ergativity based on a GRAID-annotated Jinghpaw corpus
３．学会等名 The 28th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計17件

１．著者名 小島敬裕	４．発行年 2021年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 19
３．書名 「出家生活の実際」『東南アジア上座部仏教への招待』	

１．著者名 小島敬裕	４．発行年 2021年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 15
３．書名 「中国雲南省徳宏州」『東南アジア上座部仏教への招待』	

１．著者名 Otsuka, Kosei	４．発行年 2022年
２．出版社 Oxford University Press	５．総ページ数 8
３．書名 "Burmese: Refugees and Little Yangon" in Language Communities in Japan	

1．著者名 Keita Kurabe	4．発行年 2021年
2．出版社 De Gruyter Mouton	5．総ページ数 30
3．書名 "Typological profile of the Kachin languages" in The languages and linguistics of mainland Southeast Asia: A comprehensive guide	

1．著者名 D ’ Souza, Rohan	4．発行年 2021年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 28
3．書名 "Uncertainty and Environmental Change: Kutch and the Sundarbans as environmental histories of climate change" in The Politics of Climate Change and Uncertainty in India	

1．著者名 D ’ Souza, Rohan	4．発行年 2021年
2．出版社 Pathak Shamabesh	5．総ページ数 30
3．書名 "Hindutva and the Political Citizen: Unmaking Higher Education in Modi ’ s India" in Innovation in Education	

1．著者名 D ’ Souza, Rohan	4．発行年 2021年
2．出版社 京都大学学術出版会	5．総ページ数 31
3．書名 「炭素の森と紛争の河：南アジアの歴史叙述から見た人新世」『人新世を問う：環境、人文、アジアの視点』	

1．著者名 D’Souza, Rohan	4．発行年 2021年
2．出版社 Pathak Shambesh	5．総ページ数 14
3．書名 "Covid-19 Imaginings and the Zoom to a University Platform" in Covid-19: the other side of living through a pandemic	

1．著者名 Kimura, Makiko	4．発行年 2021年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 17
3．書名 "Ethnic conflicts and local autocracy in India's North Eastern region: a case study of ethnic clashes in Bodoland, Assam, in 2012 and 2014" in Northeast India and Japan: Engagement through Connectivity	

1．著者名 木村真希子	4．発行年 2021年
2．出版社 慶應義塾大学出版会	5．総ページ数 194
3．書名 終わりなき暴力とエスニック紛争―-インド北東部と国内避難民	

1．著者名 太田 淳・長田紀之監訳　青山和佳／今村真央／蓮田隆志訳	4．発行年 2021年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 398
3．書名 『世界史のなかの東南アジアーー歴史を変える交差路』上巻	

1．著者名 太田 淳・長田紀之監訳　青山和佳／今村真央／蓮田隆志訳	4．発行年 2021年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 386
3．書名 『世界史のなかの東南アジアーー歴史を変える交差路』下巻	

1．著者名 Vinita Damodaran and Rohan D’Souza (eds.)	4．発行年 2020年
2．出版社 Primus Books	5．総ページ数 618
3．書名 Commonwealth Forestry and Environmental History: Empire Forests and Colonial Environments in Africa, the Caribbean, South Asia and New Zealand	

1．著者名 Max Martin, Vinita, Damodaran, Rohan D'Souza (eds)	4．発行年 2019年
2．出版社 Geography in Britain after World War II: Nature, Climate, and the Etchings of Time	5．総ページ数 252
3．書名 Palgrave Macmillan	

1．著者名 今村真央	4．発行年 2019年
2．出版社 丸善	5．総ページ数 2
3．書名 「キリスト教」『東南アジア文化事典』	

1．著者名 藤田幸一	4．発行年 2019年
2．出版社 人間文化研究機構「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ1	5．総ページ数 16
3．書名 「ヒンドスタン平原の生態環境と農業発展―特に下流域に焦点を当てて」	

1．著者名 Kimura, Makiko	4．発行年 2018年
2．出版社 Palgrave	5．総ページ数 22
3．書名 “Protesting the AFSPA in the Indian Periphery: The Anti-Militarization Movement in Northeast India” Law and Democracy n Contemporary India: Constitution, Contact Zone, and Performing Rights,	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小島　敬裕 (Kojima Takahiro) (10586382)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	池田　一人 (Ikeda Kazuto) (40708202)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授 (14401)	
研究分担者	デスーザ　ローハン (D'Souza Rohan) (60767903)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高田　峰夫 (Takada Mineo) (80258277)	広島修道大学・人文学部・教授 (35404)	
研究分担者	藤田　幸一 (Fujita Koichi) (80272441)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	倉部　慶太 (Kurabe Keita) (80767682)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究分担者	木村　真希子 (Kimura Makiko) (90468835)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	大塚　行誠 (Otsuka Kosei) (90612937)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授 (14401)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	長田　紀之 (Osada Noriyuki) (70717925)	アジア経済研究所・地域研究センター・研究員 (82512)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計6件

国際研究集会 Southeast Asia as Critical Crossroads: Dialogues with Anthony Reid	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Locating Zomias Wet and Dry: Stateless Spaces in Maritime and Mainland Southeast Asia	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 Graphic Politics in Eastern India: Script and the Quest for Autonomy	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Spaces of Belonging at Edges of Greater Southeast Asia	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Orthographic Plurality Case Studies from Mainland Southeast. Asia's Borderlands	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Orthographic Plurality Case Studies from Mainland Southeast Asia's Borderlands in the Greater Burma Zone	開催年 2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
シンガポール	National University of Singapore	Nanyang Technological University		
カナダ	University of Victoria			
米国	Villanova University	Clark University	Soka University of America	
インド	IIT Gandhinagar	University of Delhi		
オーストラリア	Australian National University			
英国	London School of Economics			